

正しき市民の批判に訴ふ



日刊休日 日曜日
日刊休日 月曜日
日刊休日 火曜日
日刊休日 水曜日
日刊休日 木曜日
日刊休日 金曜日
日刊休日 土曜日
日刊休日 日曜日

常識講座
コレスポンデンスは隔
地間の銀行が爲替取引
を圓滑にする爲め爲替
取引金の取立金等
つき締め約定ある下に
相互的の取引をなすこ
と、其の取引銀のこ
とをコレスと云つて

自然消滅はせぬ 平小鐵道計劃

問題は路線關係のみ

平小鐵道は小名濱商港の修築に相まつて計劃されたもので其の當時に於ては商港の完成が先きか鐵道の開通が先きかと言はれたらば急遽な實現性を唱ひられてゐた、然るにその後歐州戰亂で馬鹿太りしたる財界のパンクに見舞はれ國家の財經に緊縮方針を採るの止むなきものがあつた、爾來今日に至るまで一再ならぬ財界の變遷をめぐつて漸く敷設の緒に着かんとしたのであるが茲にまた支那事變に出會して施行を遅らせられぬの荏苒を見てはるが海運と陸送を引替へ政府の臨港鐵道を必要とする計畫方針に變りはないことは想像するに難くない、従つて小名濱商港の修築が今日の如く進まないものであればいざ知らず今更これが自然消滅するものと考えられないのが常識でもあらう、たゞ時局柄工事施行を繰延べられはせぬか、路線が何れに決まるであらうかと地元の大關心事とするところで市民の焦慮は一樣に其所にかゝつてゐる、片濱線と湯本通りの争奪がこゝから發生してゐることは言ふ迄もなく、果して何れが是であるかは見る目の相違から意見の違ふのは仕方がないにしても、私心をすて、之れを公な事業であると言ふに立脚して考へた場合、どちらを力んで主張が出来るか、總大無邊な地方産業の開發與除と言ふものに觀照を置いて永遠なる將來を考へるときに其の結果としてこの關係に重大なるつながりをもつ平市民にこれを看過する様なことがあつてはならない、批判に訴ふるは其の爲である

白紙還元の陳情に 猛烈な市民の非難

血迷つたか市會議員ごの 正氣では出来ない藝當

平市に於ける平小鐵道路線のつたが市民多數の非難を少し片濱主張は單に平市の爲と言ふのでなく各方面から見ても地方的に當然なことで沿線地は勿論郡町村長會にありても特殊困難をもつ、二町村長を除いて全部この志望の下に陳情を續けて来たが本月六日の平市會は當局の提案を見て事後的に中途退席者數名を見たる後或一部から出た多年の希望を放棄する白紙還元の動議を採用し右を決定したるのみならず野崎議長の名に於ては、高橋龜松、萩原義雄、馬目雅治、永山勇吉、鈴木光吉、五氏の陳情委員を上げた狂気の沙汰に「望みを棄て、」何の陳情ぞやと罵聲を浴びつゝ、

平小鐵道問題

正しい叫びを 危い所を阻止

地元の請願が響いたか 貴院委員會の問答

本月六日の平市會が同市多年の志望である平小鐵道創設の片濱線に對する熱願を棄てたこと、其の信用を失墜するに至つたことは當然過ぎるほど當然な

片濱線に猛烈たる 運動を續けた委員

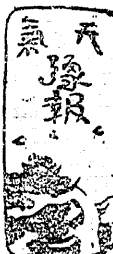
從來は此の主張であつた

平小鐵道の片濱線に熱烈なる運動を續けて来た平市去る六日の市會が何故にか異端の態度に翻り周囲の嗤ひにもはつたので不純な策謀等に左右され下した

妙な策謀運動には 絶対不動の鐵道

平市の白紙陳情に相次へて 上京した片濱側の樂觀

平小鐵道の片濱線に熱烈なる運動を續けて来た平市去る六日の市會が何故にか異端の態度に翻り周囲の嗤ひにもはつたので不純な策謀等に左右され下した



今日は北東の風、曇時々晴
明日は北東の風、曇(後晴)
(小名濱測候所)

情を患の骨頂だと唱ひられる所を卒直に上げれば次の如くである、
縣會一致(第二面掲載)の片濱主張を時代が違ふと語り湯本線に好意をもつ言は遠ふ時代を見る目がない、其の時代の片濱と今日の同地では築港が出来て船が大きくなつて遠洋の漁業に出動する漁獲高と加工製品が盛んになつて鐵道を一層必要とこそすれ變つたものは何もない平小線に關して其當時と變つたものは湯本線に於ては警備軌道が十二萬圓に賣收されるであらうことと鈴木前代議士と平市會議長である野崎議長のもつ自

【第二面に續く】

【一面より】

本週りに比較して遙かに優越する従来の方針通り片渡線を採用して貰いたいと云ふのであるが之れに付て政府當局の意見を伺ひたい

此の青木氏の問ひに對して答へられた政府委員河原直文氏のいふところを上げれば大体次の如くである、

平、小名濱間の線は最初この線の豫算を盛つた當時に於ては約三百八十萬圓をかけた小名濱港に物資を出す一つの臨海線と云ふ計畫を以て設計されてゐた其れが

青木氏の問ひの如く江名、豊間方面を廻つて小名濱に通ずるやう線路を變へて呉れと云ふ話もあり請願もあつたので前議會に於て採擇

になつたのであるが其の當時政府當局としては測量の上研究した上で出来るならば其の希望に添へたいと云ふ返事をしてある筈で

來何しる重大な問題であり又経過地點も大分變つてゐるのであるから調査研究の結果比較線との距離建設費

収益などを調べ一審安く出来る湯本から小名濱に至るものが適當であると云ふこと

は三月も四月もある事故に能く研究して希望に添へようと云ふことを話して置いたのである、それで各方面から陳情と共に提供された資料の中には我々として早くこの事を知らして呉れたならばよかつたものと思はれるが有力な資料も澤山あり今後の調査に

其れによる調査の上湯本廻りよいか片渡廻りよいか當否を決し度思つてゐる

前回の記した政府委員の答に對し青木才次郎氏から同線路は湯本廻りと云ふことに省内では決めたと云ふ風には

がそれは前大臣が退任の日かを押ししたと聞えてゐるのであるが左様であるかどうかと問はれたに對し

政府委員の河原直文氏は何でございませうかと聞き返し、青木委員が湯本廻りと云ふことに省内で決定したのは前大臣が退任の日かを押ししたと云ふことを友人から聽えて居りますがと重ね問ふ

河原政府委員の答それは省内だけの問題であつて大臣が斯うして呉れ此の方が宜いと云はれた時に決まつたので別に何時制を押ししたと云ふやうなことでなく退任の時にと云つた様な譯でなく線路を湯本廻りに決定したと云ふのもない

唯経過地點を斯う云ふ風にして測量をやらうぢやないか、やう方が適當ぢやないかと云ふことを決めただけのことであつて是から測量を致さうと云ふのである、青木委員重ねて問ふ、して見るとまだ方針が確定したのではないのですか、

河原政府委員の答、もうすでに決定したと云ふものは

ではないのです、次へて子爵井上勝純氏から次の問ひがあつた

今の話によれば請願の方の線路に對して非常に好い材料を興へられたと云ふことであるが其れはどうか云ふやうな種類のものではあつたのですか、

河原政府委員の答、この請願書が陳情と共に出して來たものであつて其れが宜しいと申上げたのではない、其れは今後能く調査して見なければ分らぬけれども大變よさうな材料だと私は考へて居るので、其の事實は二、三あるのですが主なることは石炭の採掘の中心地が移動してゐると云ふことなのです、

此のことに付ては少し我々の調査は今まで足りなかつた所もあると思はれるのですが其のことは尙ほ能くその事實を調べたいと思ふのです、

主査(侯爵井上三郎氏)他に賛成はないですか、委員三橋彌氏、ちよと政府に尋ねて見たと思ふことは湯本線と海岸を廻る線路の距離その延長の比較はまだ

實測をされぬとしても其の距離によつて大體建設費が凡そどの位、兩方を較べて違ふかを伺ひたい、

これに對する政府委員河原直文氏の答は、湯本から直接小名濱へ行くものは十六キロ五百七十メートルとなり、それから海岸を廻つて小名濱に達するものは二十二キロ六百六十メートルである

兩線の工費を申上げると湯本から小名濱に向ふものは

約四十萬圓を要する外に、それと私設鐵道(磐城炭礦軌道線)の補償費が十二萬圓ぐらゐる、それでまあ約五

十萬圓を要する、また海岸を廻る場合のものには百四十

六萬圓ほどかゝることになつてゐる、

主査(侯爵井上三郎氏)ちよつと伺ひたいが此の請願は昨年第六十七議會に於て採擇になつて居るやうに思ふのですがそれと内容は同じですか、

政府委員河原直文氏の答、同じです、

委員子爵井上勝純氏の間、昨年の説明では海岸を傳はらずに内地を通ると山とか河とかある様に記憶してゐるのですが如何でせう、

河原政府委員の答、山があるとは湯本から行くものと、海岸を廻るものと、その二つの線の中を行くもので其の線は今比較的の外に出てゐるのです、

主査(井上三郎氏)その他に賛成はないでせうか、では其の次に移ります、

以上のやう質疑應答を交はされて貴院第四分科會の審査を経て第三十八號の平小鐵道敷設に關する件は議院の會議に付すべきものと云つた(終)

片濱迂迴に 縣會の意見書 鈴木前代議士の提唱

愈々防寒具の御用意を!

秋-冬-秋 大人-子供 帽子 毛糸服 實用 毛シャツ 綿製品

横山商店 債券部 町間仲市平 〇一六〇九 東京營振 番一七二 電話

和洋鋼鐵、金物問屋 債券 公債 兩替 金融 多田井質店

臣に左記の意見書を提出され 本縣石城郡平町より小名濱港に達し海陸の交通を連絡すべき平小鐵道は政府に於ても亦その緊要の施設なるを認められ特に豫定年度を繰上げて豫算を編成せられしやに聞承したるが該鐵道の敷設に就きて閉却すべからざるは即ち片濱と通稱する江名、豊間、高久三漁村の盛衰問題なり抑も本縣の

牛も豚も優良品の自慢

肉の御用命は 三三屋 平市 田町 印刷部

三三屋 平市 田町 印刷部

和洋鋼鐵、金物問屋 債券 公債 兩替 金融 多田井質店